



地域子育てネットワークだより

令和 8 年 10 月

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課

E-MAIL : danjoseishounen@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 73122)



県児童相談所（こども家庭センター） 児童虐待相談の状況



令和 7 年度に県児童相談所（こども家庭センター）7カ所（中央、尼崎、西宮、川西、加東、姫路、豊岡）が対応した児童虐待相談対応件数は**6,251件**で、**令和6年度（5,671件）**と比べて**580件増加し過去最多**となっています。なお、神戸市こども家庭センター・明石こどもセンターを含めると**10,177件**であり、**兵庫県全体**の児童相談所の虐待相談対応件数も、**過去最多**となっています。（令和6年度：9,598件）

相談種別としては**心理的虐待が 3,972 件で 全体の 63.5%**と最も多く、次いで**身体的虐待、ネグレクト（保護の怠慢・拒否）、性的虐待**と続きます。

相談経路は**警察からの相談が 4,268 件**と最も多く、全体に占める割合は**68.3%**（令和6年度 64.5%）です。次いで**近隣・知人から**となっています。

主な虐待者は**実父が 3,099 件で 全体の 49.6%**と最も多く、次いで**実母が 2,634 件で 42.1%**、実父と

を合わせると **5,733 件**で全体の **91.7%**を占めています。被害を受けているのは**小学生以下の子どもが 4,748 件**で**全体の 76.0%**を占めています。

「子育て応援ネット」が取り組む登下校時の **見守り**や、**声かけ**、**SOS キャッチ活動**など地域ぐるみの子育て応援がますます求められています。



子育て応援ネットの活動紹介



声かけ・見守り活動などで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」の各地の取組を紹介します。

姫路市連合婦人会で、それぞれの地域において行っている子育て支援活動について紹介します。中寺校区では、令和 7 年度は、秋祭りに参加した親子に**おにぎり**と**豚汁**を提供したり、中寺こども園の 5 歳児と一緒に**フラワーアレンジメント**を行いました。

豊富校区では、豊富公民館で**季節のイベント**や**お誕生日会**などを実施したり、保育所を訪問し**フラワーアレンジメント**等も行っています。また、**日赤の短期講習**として、今年度は 7 月に豊富小中学校（9 年制の義務教育学校）の 6 年生を対象に**献血セミナー**を行い、11 月には 6 年生が**AED 講習**を、8 年生が**三角巾の使用法の実習**を行います。

これからも子どもたちや保護者の方と笑顔で関わり、成長を見守っていききたいと思います。

姫路市連合婦人会 会長 岩田 稔恵





「URこどもSUMAいる広場」では、2025年10月から月1回、UR賃貸住宅や近隣にお住まいの子育て世帯を対象に親子向けイベントを開催しており、イベント企画から開催まで「URコミュニティ兵庫こどもつながるサポーター」が行っています。

地域で活動している方を講師としてお招きした親子ヨガ、子育て世代同士の交流を目的としたクリスマス会、保護者のストレス解消を目的に見守り保育付きで開催したパーソナルカラー診断体験会、ハンカチ作りなど様々な企画を実施してきました。

また、Instagramを通じて地域の子育て世帯向けイベントの情報や子育てに役立つコラム、手作りおもちゃの紹介などを発信しています。

今後も地域の皆さまと連携しながら、子育て世帯の皆さまが楽しく安心して子育てできるよう応援していきます。皆さまのお越しをスタッフ一同お待ちしております。

【Instagram】



兵庫こどもつながるサポーター

【クリスマス会】



【人形劇】



【親子ヨガ】



みんな集まれ！UNO大会 開催！

開催日時：10月18日(日) 13:00～

場所：兵庫県立こどもの館 3階研修室
姫路市太市中915-49

対象：小学1年生～6年生 参加費：無料(事前申込制)
(11日正午締め切り)



UNOが好き、カードゲームが大好きな小学生集合！
優勝者は表彰いたします。



連載
183回

インフルエンザワクチンは毎年の接種で感染予防を！

県立こども病院名誉院長 中村 肇

インフルエンザの感染が、近畿で急速に広がっています。

私たちの体は、一度出会ったウイルスを記憶しますが、ウイルスの構造が変わると、その記憶が十分に役立たなくなることがあります。その結果、前年のワクチンで得た免疫では、その年に流行するウイルスに対応できない場合があります。

世界保健機関(WHO)は、世界各地の流行状況を監視し、今年流行が予測されるウイルスの種類を選定し、そのウイルスタイプに応じたワクチンが生産されています。

ワクチンで感染を完全に防ぐことはできませんが、発症や重症化、特に高齢者における死亡リスクを下げる効果があることが分かっています。インフルエンザワクチンは、ウイルスが毎年変異することや、免疫の持続期間が比較的短いことから、毎年接種することが推奨されています。

インフルエンザワクチンの接種は、時期や流行状況をチェックし、必要に応じて医師に相談しながら決めましょう。

